

単孔式腹腔鏡下手術

— さらに進化した腹腔鏡下外科手術について —

今までは腹腔内へ3～4か所の小さな穴をあけて、腹腔鏡というカメラと手術器具を挿入して、映像を見ながら手術を行っていましたが、最近ではおへそに約2cmの孔を開けてそこに特殊な器具を挿入して1か所の孔から3本のトロッカーを入れて今までの腹腔鏡手術と同様に行う手技を始めています。(図1)(図2)



図1：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術



図2：単孔式：おへそからの手技

従来の腹腔鏡手術よりも傷が少なく、術後の疼痛や癒着による合併症が少なくなる可能性があります。また、傷跡はおへその1か所だけで、術後に創がほとんどわからなくなり、美容的なメリットがあります。(図3)

しかし、従来の腹腔鏡手術に比べて制限された術創より腹腔鏡下操作を行うため、高度な技術が必要と

なります。それゆえ、単孔式腹腔鏡下手術を安全に行うためには、日本内視鏡外科学会技術認定医のもとで行う事が良いと思われます。当院では腹腔鏡手術領域で一定の修練を積み、独特の手術操作を習熟した日本内視鏡外科学会技術認定医がいますので安心して手術を受けていただくことが出来ます。ただ、この手技はすべての疾患に出来る訳ではなく、内視鏡外科におけるひとつの選択肢ですので、その利点や欠点をよく理解していただいた上で、十分なインフォームドコンセントを得て実施しております。



図3：術後（おへその創はほとんどわかりません）

最近では胆石症での単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術、上行結腸癌や下行結腸癌の単孔式右半・左半結腸切除、胃癌の単孔式胃部分切除などに対して適応を考慮して行っています。

〈単孔式腹腔鏡下手術の長所〉

- おへその傷のみで手術のあとがほとんど判らない。
- 痛みが少なく翌日から歩行が可能で早期退院が可能。
- 3DCDカメラを使用するので拡大視効果がある。
- 腹腔内の癒着がほとんどない（腸閉塞になりにくい）。

「この手術は高度な技術と手技に習熟した外科医が行うことが必要ですので、日本内視鏡外科学会技術認定医のいる施設で行いましょう。」